



# 企業研修報告(エーザイ)

平成  
25  
年度

作成者： 4年 伊東 今福 田中 戸田 西村 宮崎 守谷

2013年9月3日(火) 8:30-14:30

エーザイ株式会社筑波研究所を訪問し研修を受けました。



エーザイ株式会社

## 研修目的

製薬企業が行っている取り組みについて、環境保全活動を中心に話を伺う。

## 研修内容

エーザイPC本部予算管理・人材開発部の上村様のご案内で以下の研修を受けました。

- エーザイの概要と企業理念 (上村敏之様)
- 蓄熱システムによるCO<sub>2</sub>排出削減 (阿部一男様)
- 微生物・遺伝子改変動物の取り扱い (川上善之様)
- グリーンケミストリーまたは安全工学 (宮下祐輔様)
- 環境対策施設等研究所見学

※昼休みには社員食堂で昼食を頂きました。



エーザイ株式会社筑波研究所は茨城県つくば市にあります(下図)。首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス「研究学園駅」よりバスで8分、徒歩5分かけて訪問しました。



←今回の研修を担当し案内して下さいました上村様と記念写真を撮りました。(エーザイ筑波研究所の敷地内にて)

本研修を踏まえ、本ポスターでは以下を報告します。

- 2枚目 ○ エーザイの概要、エーザイの企業理念 hhc について
- 3枚目 ○ エーザイの経営システム
- 4枚目 ○ エーザイの環境対策

※記載事項は、見学時点の情報です。

## 謝辞

貴重な時間を割いて本研修を実施して頂きましたエーザイ株式会社の皆様に深く感謝いたします。大変お世話になりました。

# エーザイ株式会社の概要と企業理念

研修では、初めにエーザイ株式会社の概要や企業理念について話を伺いました。

## ◎企業概要

名称：エーザイ株式会社  
設立：1941年12月6日  
本社：東京都文京区小石川4-6-10  
代表者：代表執行役社長（CEO）内藤晴夫  
事業内容：医薬品、医薬部外品の製造販売

## ◎目指す企業像

一人ひとりが法令と倫理を遵守したビジネス活動を徹底し、いかなる医療システム下においても存在意義のあるヒューマン・ヘルスケア企業

## ◎エーザイの歩み

1936年 合資会社桜ヶ丘研究所設立  
1941年 日本衛材株式会社設立  
1944年 合資会社桜ヶ丘研究所と日本衛材株式会社が対等合併  
日本衛材株式会社へ  
1955年 社名を「エーザイ株式会社」に改称



↑日本衛材株式会社事業所跡。

## ◎企業理念

患者様と生活者の皆様の喜怒哀楽を考え、そのベネフィット向上を第一義とし、世界のヘルスケアの多様なニーズを充足する。



この理念を一言に集約したものが・・・

**hhc（ヒューマン・ヘルス・ケア）**  
である。

- ・社員一人ひとりが患者様の傍らに寄り添い、患者様の目線でものを考え、言葉にならない思いを感じ取ることが重要であると考える。
- ・すべての社員が就業時間の1%を患者様と共に過ごすことを推奨。

例えば・・・

<アリセプト（アルツハイマー型認知症進行抑制剤）カップ型ゼリー剤>

いくつかの固さのゼリー剤を用意し、最も飲みやすいものを患者の方に選んでもらう。

このような工夫を行うことで、患者の方々のニーズに合わせた医薬品を提供している。

## ◎hhc推進体制

### ・hhc Initiative

エーザイ・プロダクトクリエーション・システムズ：EPCS（研究開発）、エーザイ・デマンドチェーン・システムズ：EDCS（生産）、営業、管理の各部門の代表メンバーが、世界中から参加し、お互いのベストプラクティスを発表しあうとともに、その過程で創造された知識を学び、共有するイベント。これによって、**グローバルな知識共有**を積極的に推進している。

### ・知識創造型経営

社員一人ひとりが「**知識創造理論**」の考え方を行動に取り込むことによって、創意工夫しながら具体的な成果に落とし込むことによって、それぞれの立場でイノベーションを実現している。

活動を通じて得た成功体験やノウハウなど、個人レベルにとどまっている知識を組織で共有し、全社レベルでのイノベーションに結実させるため、「**知創部**」が中心となって、**知識創造による全社的なイノベーション**を推進している。

## <エーザイマークの由来>

**色**：赤い血は動脈から、青い血は静脈から、心臓を中心に一刻も休まずに活動しつづけている。われわれの仕事はこの動きが滞らないようにと、健康を保ち生命を続けさせることである。

**形**：われわれの活動する舞台は東も西もない。人類のあるところ、これすべてひとしくわれわれの活動を待ちうけている。目標の重点は上や下がなくて中堅であり、中庸であり、中央であり、健全なる調和である。



# エーザイ株式会社の経営システム

hhc 活動は、**研究開発、生産、営業、管理**の各部門で行われており、それぞれの部門では、hhc 理念を達成するために多くの工夫がなされています。エーザイが掲げる独自の経営システムについて話を伺いました。

## ◎生産・物流部門：エーザイ・デマンドチェーン・システムズ (EDCS)

新興国・開発途上国を含む世界の国々に、高品質な製品をアフォーダブルな（患者様が購入しやすい）価格で安定供給することを企図し、2012年10月に、従来の生産拠点単位で最適化を重視した生産体制から、製品群ごとに原料調達・製造・包装・出荷に至るまでの生産活動に対してエンド・トゥ・エンドを実践するグローバルな体制に移行。



### グローバルな安定供給体制

エーザイは現在、国内に4カ所、海外に5カ所の生産拠点を有している。グローバルに供給する製品については複数拠点での生産が可能な体制を確立し、有事においても、世界の人々に高品質な医薬品を安定して供給する体制を構築している。



## ◎研究開発：エーザイ・プロダクトクリエーション・システムズ (EPCS)

患者様の生命・生活の質を改善する医薬品を一日でも早くお届けするという使命の源流となる研究開発活動を、プロダクトクリエーションと定義している。研究開発部門である「EPCS」では、プロダクトクリエーション・ユニット (PCU) とコアファンクションユニット (CFU) から構成される体制（下図）により、患者様のアンメット・メディカル・ニーズ（未だ満たされない医療ニーズ）を充足するために、新たな医薬品を生み出すイノベーションの創出に取り組んでいる。

また、開発期間の短縮を実現することで、未だ十分な治療法が確立されていない疾病の克服および患者様や介護者の皆様のQOLの向上に資する革新的な新薬を早期に創出している。



### プロダクト・クリエーションユニット (PCU)

疾患領域・創薬分野ごとに構成されており、新薬の発明・発見から承認取得までの責任を担っている。

### コアファンクションユニット (CFU)

新薬創出に必要な創薬技術をPCUに提供する。

様々な領域に特化した分野をもつ二つのユニットがそれぞれ連携して研究開発を行う。

この体制により、疾病・技術領域別の各ユニットが自律的な環境の下で明確な責任を持ち、製品創出におけるオーナーシップとモチベーションを高め、生産性・効率性の向上へとつなげている。

研究開発・生産・営業・管理等のそれぞれの部門の運営システムには hhc 理念をより確実に達成するための様々な工夫が組み込まれている。



# エーザイ株式会社の環境対策

## ENW（エーザイネットワーク）環境方針

地球環境の保護を重視した企業活動を行い、環境保全に努めるという基本理念と具体的な行動指針9項目を示し、これらに基づいて、積極的かつ継続的な環境保全活動を展開しています。

エーザイで実施している①二酸化炭素削減計画、②環境負荷低減計画、③有機溶媒ガス分解技術の3点について話を伺いました。また、研究所、環境対策施設、耐震工事の現場を見学させて頂きました。

### ①二酸化炭素削減計画（1995～）

エーザイでは1年間に約3000万kwhの電力を消費しており、これは一般家庭の5000～6000件分の電力消費量と同等である。これらの電力を効率よく賄うため、様々な工夫がなされていた。

#### 電主熱従型エネルギーのベストミックス

石油：災害時における電気  
電気：71%  
ガス：29%

このような電力源の割合にすることで、東日本大震災時も重要施設を守ることができた。また、エーザイには、国内で最大級のヒートポンプを所有しており、これを利用して、効率よくエネルギーを産出している。

#### 二酸化炭素削減計画による効果

- 昼間よりも安い夜間電力を熱として蓄電することでコストの削減に成功した。
- 蓄熱システムにより二酸化炭素を1/3削減した。

### ②環境負荷低減計画

排水処理をした後、中水道システムを経ることで、浄化した排水を冷却水や散水用水として利用すると共に、直接放流することができるようになった。

### ③有機溶媒ガス分解技術

研究所から出る有機溶媒を含む排気ガス処理方法には、真空冷却、酸・アルカリスクラバー、活性炭吸着等が考えられるが、筑波研究所においては、プラズマ放電による分解を利用して効率的に処理している。

#### 蓄熱システム

3200トンのお湯に変えて電気を蓄えている。ブライン型ヒートポンプ⇒外部の熱を用いて温水を作っている。外気のエネルギーを用いているため、エネルギー効率が高く、出力は入力3～4倍ある。

#### 蒸気レス空調システム

加熱による蒸気ではなく、水の気化による加湿を採用している。⇒全ての熱源はヒートポンプシステムを使用。夜間に2時間乾燥工程を入れることで、加湿器表面に発生した付着細菌を死滅させている。



↑排水処理のシステムを見学



↑筑波研究所で実施されている医薬品の探索や合成研究について、研究室の現場で説明して頂いた。



↑大震災に備えて耐震および免震工事が行われていた。建物ごとジャッキアップして免震装置を埋め込むという日本でも例の少ない大規模な工事を見ることができた。



↑様々な蓄熱システムの施設を見学。先進的なシステムが構築・導入されており、他の企業も見学に来るということでした。